

になると、環境行政や都市計画行政に関する事務を直接市が執行することになるため、地域の実情により即したまちづくりを進めることが可能となる。また、行財政能力のある独立性の高い自治体としても認められることになるため、地域の実状に合った行政サービスが行える。市は2004（平成16）年4月1日に全国で40番目の特例市として指定を受けた。2008（平成20）年現在、全国で43市、県内では5市の特例市がある。

特例市には18の法律に関する事務権限がまとめて移譲される。指定を受けた時点で市は、すでに県の「彩の国中核都市」の指定により権限委譲されていた事務があったため、特例市指定により新しく委譲されたのは3分野9法律に基づく事務だった。（平成16年1月1日号）

と し け い か く 都市計画 マスタープラン

市町村の都市計画に関する基本的な方針として、住民の意見を反映するとともに長期的な視点から都市の将来像や都市づくりの目標を明らかにし、都市計画や地域づくりの指針となるもの。市では1996（平成8）年度から市民意識調査を開始。町会・自治会、各種団体の代表者からなる「まちづくり懇談会」や有識者、地域・産業界の代表者から構成される「草加市都市計画マスタープラン策定委員会」から意見や提案を受け、1999（平成11）年6月に策定した。

「快適ネットワーク都市 草加」を基本理念に、市街地整備、道路・交通体系整備、防災まちづくり、公園・緑地整備、風景まちづくり、生活環境整備の6つの視点に立った部門別まちづくり方針と、市内を12ブロックに分けた地区別のまちづくり方針を定めている。

〈草加市都市計画マスタープラン・平成9年1月20日号・平成11年6月20日号〉

❑景観計画・景観条例 市街化区

域・市街化調整区域

と ち く か く せ い り じ き ょ う 土地地区画整理事業

都市基盤が未整備な市街地や、今後市街地が予定される地区において、良好な市街地の形成や快適な住環境の創出を目的として、道路や公園などの公共施設を整備する事業。

市内では1963（昭和38）年度から1965（昭和40）年度に行われた草加工業開発土地地区画整理事業が最初。これを含め、市内では11地区で事業が行われ、現在、新田西部地区及び遊馬町の一部の地区で施行している。事業によって4m以上の道路に囲まれた、整形な土地が連続する魅力的な街並みがつくり出されている。市内の施行面積は、2008（平成20）年3月現在で472.5ha。

〈都市整備部の概要〉

❑駅前再開発 草加八潮工業団地

と っ き ょ う だ い が く 獨協大学

市内にある4年制大学。1964（昭和39）年、栄町（学園町）に「大学は学問を通じての人間形成の場である」を建学理念に創設された。現在、外国語・国際教養・経済・法の4学部9学科、外国語学・経済学・法学の大学院3研究科と法科大学院があり、オープンカレッジを含め約1万1000人が学ぶ。

大学の前身は、1883（明治16）年に創立された「獨逸学協会学校」。ドイツの進んだ学問・文化を教授し、政界・官界・医学界等に多くの指導者を送り出した。初代校長は「哲学」という字を造語した明治時代の哲学者・啓蒙思想家の西周。獨協大学の創立者で哲学者の天野貞祐博士は、同校の出身者で、戦後の荒廃した教育を立て直すべく文部大臣として尽力した。また、本市ゆかりの俳人・水原秋桜子は獨逸学協会学校の出身者である。

2004（平成16）年に完成した伝右川に架かる「獨協さくら橋」は、



2004（平成16）年度の草加市まちなみ景観賞を受賞している。2007（平成19）年2月には、さらに市と大学の連携を深めるため、「草加市・獨協大学協働宣言」と「草加市・獨協大学基本協定書」が調印された。（昭和39年6月10日号・平成19年2月20日号）
❑草加市・獨協大学協働宣言 獨協大学オープンカレッジ まちなみ景観賞 水原秋桜子

と っ き ょ う だ い が く 獨協大学 オープンカレッジ

1970（昭和45）年から開始された生涯学習活動。当初は「獨協大学公開講座」の名称で、毎年秋に2講座を開講。1993（平成5）年、オープンカレッジとなり、市民の学習ニーズに応えるべく講座のジャンル、講座数を大幅に増やした。

現在、外国語（9言語）、教養、ライフプラン、スポーツなど6ジャンルに120講座以上を開講する。また、



市内に住む外国籍の人たちに日本語を学ぶ機会を提供するため、市と協力して「日本語」講座を無料で開講している。

〈昭和45年5月10日号・平成4年5月20日号・平成5年3月5日号〉

❑獨協大学

と よ だ さ ぶ ろ う 豊田三郎

〔1907〈明治40〉年～1959〈昭和34〉年〕
草加市出身の小説家。1907（明治40）年川柳村柿木生まれ。1930（昭和5）年東京大学独文科卒。友人の高木卓らと同人誌「制作」を創刊。徳田秋声に師事。1932（昭和7）年に紀伊国屋書店出版部に入社し、ここから出版する文芸誌「行動」編集長に。1935（昭和10）年の『弔花』で行動主義文学の代表作家となる。また、同作品は芥川賞の候補作となった。同年、森村浅香と結婚、森村姓に。旧制高校生の純愛を描いた



『青春』、ビルマ戦線の体験を描いた『行軍』、長編小説『仮面天使』などが代表作。『幼年時代』や『青年』は、彼の郷里である中川河畔の田園が舞台。1959（昭和34）年11月18日、52歳で没。遺稿の短編集『好きな絵』も芥川賞候補となった。

1983（昭和58）年、市内の文学愛好者が女体神社（柿木町）境内に豊田三郎文学碑を建碑。また、1993（平成5）年11月6日には豊田三郎童話文学碑（書・上川道子）が母校である川柳小学校の創立120周年を記念し、同小学校に設置された。『天国に一番近い島』『結婚志願』などの作者として知られる作家の森村桂は長女。

〈通史編下P464～・昭和62年9月20日号・昭和63年3月20日号・平成5年11月20日号・平成16年10月5日号〉

と り あ ー じ ょ う トリアージ用 マウンテンバイク隊

大規模災害が発生した時、負傷者の治療緊急度や搬送の優先順位等を判定する「トリアージ」を専門とするマウンテンバイク隊。トリアージにより、ケガの程度や治療の緊急度・重症度に応じて適切な応急処置や医療処置といった初期対応の迅速化が図られる。2005（平成17）年7月1日に発足。2008（平成20）年8月現在、54人の救急救命士で構成され

る。マウンテンバイクはフレームが白色で塗装され、消防署に2台、分署（西・北・青柳）に各1台の計5台を配備。隊員は聴診器、AED、トリアージタグ及び応急手当資機材を携行のうえ災害時に現場に急行し、トリアージを開始する。

なお、市では2004（平成16）年9月には消防署以外の職員で構成する情報収集のための防災マウンテンバイク隊、2005（平成17）年3月には情報収集と初期消火を行う赤バイ隊を組織するなど、災害時の初期対応の強化を図っている。

〈平成17年7月20日号〉

❑赤バイ隊 防災マウンテンバイク隊

と ろ っ こ 橋 トロッコ橋

草加松原の綾瀬川に架かっていた歩道橋。正式には「大阪窯業橋」。1921（大正10）年ごろ、大阪窯業（レンガ工場）がトロッコ用に架けた。5年後に改築され、永久橋に。当時、工場内にはトロッコ用の線路が10km分も敷かれ、数百台のトロッコが走っていた。1931（昭和6）年、大阪窯業のレンガ出荷のため草加駅と新田駅の中間、現在の松原団地のやや南側に草加荷扱所が開設され、同窯業までの引き込み線が敷設された。草加荷扱所は1973（昭和48）年に廃止された。トロッコ橋の上には線路が敷かれ、橋脚にはレンガが使われていた。その後、トロッコ橋は、1995（平成7）年3月に「綾瀬川リバータウン整備構想」の新たなシンボルとなるようハープをデザインした橋に架け替えられ、ハープ橋と名称を改めた。

〈通史編下P413・P442〉

❑綾瀬川 綾瀬川リバータウン整備構想 草加松原 ハープ橋